

国語 第6学年 表現に着目して読み、考えたことを伝え合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍『新編 新しい国語（令和6年度版）』の9月～10月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

模型とまちに関わる描写や繰り返される表現に着目し、作品の全体像を考える。物の描写も丁寧に読み、人物の受け止め方や場面の前後と結び付けて表現の効果を考える。単元の終わりに残すのは、表現の効果のメモ。着目した描写、感じた印象、前後の場面との関係、作品全体への考えを記す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)エ	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(2)イ	イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。

単元の目標

比喩や反復などの表現の工夫に気付き、描写の言葉を確かめられる。描写と場面の関係から作品の全体像を想像し、表現の効果を考えられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付き、描写の言葉を確かめている。 （〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、描写と場面の関係から作品の全体像を想像し、表現の効果を考えている。（C(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画による全5時間（読む5）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、印象に残った描写と初めの考えを記録する。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○人物の行動と模型・まちの描写を場面ごとに整理する。	知①（語句や内容の整理）
	3 （本 時）	○着目した表現の印象と前後の場面の関係を説明し合う。	思①（発言・学習記録）
	4	○作品全体と表現の効果について文章にまとめる。	学習状況を見て支援する。
第3次	5	○文章を交流し、根拠の違いを受けて読み直す。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：描写と場面の関係から作品の全体像を想像し、表現の効果を考えられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「模型やまちを表す言葉は、どんな印象を与えていますか。その印象は、前後の人物の様子や出来事とどう関係していますか」 【めあて】模型とまちに関わる描写や繰り返される表現に着目し、作品の全体像を考える。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ物の描写でも、場面によって印象が異なる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「模型やまちを表す言葉は、どんな印象を与えていますか。その印象は、前後の人物の様子や出来事とどう関係していますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ物の描写でも、場面によって印象が異なる。 ・繰り返される言葉が作品全体の感じを作っている。 ・友達とは別の描写を大事に読んだ。	印象に残った表現と、その前後の行動や情景を組にする。別の平易な言い方と比べ、原文で生まれる印象を説明する。語句の置換は比較のためで、本文の改変版を配布しない。 想定する難しさ：感想を雰囲気だけで述べ、表現を示せない。象徴の意味の一つに決めつける。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 描写と場面の関係から作品の全体像を想像し、表現の効果を考えている。 （発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達とは別の描写を大事に読んだ。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「模型やまちを表す言葉は、どんな印象を与えていますか。その印象は、前後の人物の様子や出来事とどう関係していますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童

の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、感想を雰囲気だけで述べ、表現を示せない。象徴の意味を一つに決めつける。この場合は、印象に残った表現と、その前後の行動や情景を組にする。別の平易な言い方と比べ、原文で生まれる印象を説明する。語句の置換は比較のためで、本文の改変版を配布しない。おおむね満足できる状況は、描写と場面の関係から作品の全体像を想像し、表現の効果を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

表現の効果のメモ。着目した描写、感じた印象、前後の場面との関係、作品全体への考えを記す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：東京書籍 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_6_202412.docx／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価基準の観点と記録の考え方。

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

